



森 康喜ちゃん

東柏ケ谷、森康幸・敏枝さんの長男=1歳



浜田 遼太郎ちゃん

上河内、浜田裕栄・由紀子さんの長男=1歳



秋田 直樹ちゃん

柏ケ谷、秋田潔・美幸さんの2男=1歳



川崎 真由佳ちゃん

東柏ケ谷、川崎敦・千佳さんの2女=1歳



齋藤 優斗ちゃん

門沢橋、齋藤剛・恵子さんの長男=1歳



木内 陽菜ちゃん

杉久保、木内克巳・友加利さんの2女=1歳



濱田 稜平ちゃん

本郷、濱田俊彦・智子さんの2男=1歳



加藤 樹ちゃん

中新田、加藤信一・千歳さんの2男=1歳

まんまるおぼちゃん

▼社会実験の成果に期待

4月13日から東京・有明で開催された「国際環境展」。本市が環境にやさしい交通システムの実験で使用している電気自動車に、多くの注目が集まっていました。



フネトビックス

▼白球を追い熱戦が展開

「少年少女スポーツ大会」全6種目の先陣を切って、4月2日から野球がスタート。参加した18チームの小学生たちが、好プレーの数々を繰り広げました。



このコーナーに掲載を希望する方は…
電話で広報広聴課(内271)へ。ただし、申し込み時点で1歳未満の赤ちゃんに限り、お早めにごぞ。なお、申込数が多く掲載できない場合もあります。

みなさんからの作品

海老名の風景②



(▷場所 自宅の庭から中央方面 ▷撮影日 3月10日) 望地在住・金子京子さん撮影



3月下旬に行われた、有馬図書館の「手作り絵本教室」。子どもたちが自分で描いた世界でただ1冊の絵本を、友達の前で披露しました。

自作の絵本を発表

今月のプロフィール

工作やマジックで自由な心育てる「なんでもハウス」主宰

嶋崎 博さん・滋子さん



どこでも好評の「出前手品」

曲がるペンとびくペン!

「世界各国の子どもにも太陽の絵を描かせたとき、赤く描くのは日本など少数の国だけだそう。世界的には少数派の『赤い太陽』が日本では常識であるために、子どもたちが太陽について『赤い』以外の発想が思い浮かばないのではないか。そんな心配が、私たち『なんでもハウス』の出発点です」と話すのは、上郷在住の嶋崎博さん・滋子さんご夫妻。
10年以上前に自宅の車庫を改造して、子どもたちの遊び場「なんでもハウス」を設立。「常識に縛られず、自分の力で考える人に育つように」と、漢字の部首カルタやペトボトルのロケットなどの、アイデア工作をしながら遊べる場所にしました」と滋子さん。
去年春からは、評判を開きつけた幼稚園・高校・老人会などの招きで出かけ、そこでアイデア工作の指導やマジックを披露する「出前のなんでもハウス」に衣替えしました。

ました。「幅広い層から誘いがあり、市内はもちろん、県外まで出かけることも度々です」。

身の回りの物を使った博さんのマジックが、「出前のなんでもハウス」の目玉。「私の手にあるボールペンが曲がって見ると、『ボールペンは硬い』という常識が働いてみんなどはと驚きます。日常なげなく受け入れていた常識ほど、マジックで利用すると効果が大きいのです」と博さん。

「常識は人間の心のよりどころ。完全になくすことはできません。でも、常識にとらわれず『なんでもあり』と考える人たちが増えれば、社会や教育も変わってくるのでは。そんな出会いを求めて、これからは山奥の分校などへこちらから押しかけて行くぐらいの気持ちで、『出前』をしていきたいですね。今日も『なんでもハウス』は、常識の扉を開くマジックを演じ続けています。

「継続は力なり」という名言があります。1面の事業所もまさに継続の結果、ごみゼロを達成したのでしょ。広報えびなも今回で700

号を迎えることができました。これからは担当一丸とあって、より親しみのある紙面を目指して継続していきたいと思えます。(大)

編集後記